

社会 第4学年 わたしたちの住んでいる県 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「地域の国際交流は、どのような人の協力で続いているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。(5)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：自治体の交流事業や多言語での案内、交流団体の活動資料を読み、相手地域の位置と交流の目的を地図に付ける。行事に参加するだけでなく日常の相談や学習支援にも目を向ける。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。(5)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：外国の食べ物の紹介で終わる場合、言葉や生活上の違いを越えて協力する仕事へ問いを戻す。国籍から暮らしや考えを決めつけたい 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。(5)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。日常生活を支える協力を整理する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：児童の国籍や家庭の言語を本人の意思に反して発表しない。国旗と文化を互いに尊重して扱う 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、(5)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：自治体の交流事業や多言語での案内、交流団体の活動資料を読み、相手地域の位置と交流の目的を地図に付ける。行事に参加するだけでなく日常の相談や学習支援にも目を向ける。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全8時間は日本文教出版の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「地域の国際交流は、どのような人の協力で続いているだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「地域の国際交流は、どのような人の協力で続いているだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。自分たちの関わり方を説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

